

# 和顔愛語

寺報

令和6年7月号

## 施しの実践で日々を豊かに

洪 沢栄一、津田梅子、北里柴三郎。今年の7月3日から新しく発行される紙幣に描かれる人物たちです。しばらくは財布のなかに福沢諭吉、樋口一葉、野口英世を合わせた6人が混在しそうですが、いずれは新たな3人だけが残っていくことでしょう。寂しい気もしますが、新しい時代を感じるきっかけにもなりそうです。

さて、私たちが使うお札は日本銀行券が正式名称。その第一号は明治18年に発行されました。そこには大黒天が印刷されており「大黒札」と呼ばれたそうです。その後、偽造防止のためにお札には人物が描かれるようになります。最初は菅原道真などが採用され、これまで16人の人物が登場しています。その中で最も用いられたのが聖徳太子です。昭和5年に100円札に採用されて以来、7種類のお札に描かれました。懐かしく感じる方もいるかもしれません。

このような紙幣のデザインは20年ほどで変わることが多いようです。そして、お札が新しくなると

祝儀や布施として新旧どちらを包むかに悩む方もいるようです。これについては、特に決まりはありませんので手元にあるものをお包みいただければよいでしょう。

ところで、みなさんが普段お寺にお持ちいただくお布施は財施といい、金銭を施すものですが、お布施には他にも種類があり、とくに「無財の七施」と呼ばれる財産がなくてもできる以下の七つが有名です。①好ましい眼差しで接する眼施。②和やかな喜びの顔つきで接する和顔施。③思いやりのある言葉をかける言辭施。④我が身を惜しまず他者に尽くす身施。⑤相手の立場にたち心かけける心施。⑥席を譲る床座施。⑦自宅を宿として提供する房舎施。

この七つは大切な布施の修行であり、日常の中で実践できるものです。これらを行うと大きな功德を積むことができ、日々の暮らしを豊かにし、またその功德は来世をよりよいものにしてくれます。ぜひご自身の生活に取り入れてみてはいかがでしょうかでしょう。

生活の中にある

## 仏教の言葉

③

私たちが日常で使う言葉には、仏教に由来する言葉が多くあります。なかには、仏教ではまったく意味が異なるものも。このコーナーでは、そんな言葉を紹介していきます。

## 知識

「知識とは唯一経験から得られるものだ」。

ドイツの理論物理学者であるアルバート・アインシュタインはこのように言ったとされます。

これは情報をただ集めるだけでは知識にはならず、自身の経験を積み重ねることで初めて知識となるというもの。インターネットの発達により、情報を得ることが容易になった現代こそ大切な言葉に思えます。

さて、現代では「理解するこ



と」「知ること」などの意味で使われる「知識」ですが、古く仏教では「善知識ぜんちしき」を略した言葉として用いられていました。

「善知識」とは、「仏教の正しい道理を教え、導いてくれる存

在」を言います。浄土宗で大切にされるお経の一つ『観無量寿経かんむりょうじゆきやう』の中にも、今まさに亡くなるうとする人の前に善知識が現れ、お念仏の教えを授ける場面が描かれています。

仏教では、教えを實際に行動に移すことを重視します。知るだけでなく、実践してこそ自分のものになるということです。

知り得た情報はつい誰かに話したくなるものですが、しっかりと自分の経験と組み合わせること始めて相手に伝わるのではないのでしょうか。

## 出世

会社に勤めている人にとって出世することは一つの目標といえるでしょう。高い立場になりたい、いい生活がしたい、その理由は様々ですが、少なからず欲望の心が垣間見える言葉といえます。

実はこの「出世」、仏教では、「仏さまが人々を救うためにこの世に生まれ出ること」や、「俗世間を捨てて仏教の道へ進むこと」を意味する言葉で、現在使われるような用法はまったくありませんでした。

日本では、平安時代に貴族の間でも仏教を信仰する人が増え、出家する人も多くなりました。そして中国から日本に伝わった「出世」は、特にこの貴族たちの出家をさすことばとして用いられるようになっていきます。

元の身分の影響からか、出家した貴族たちがすぐに大きな寺院の住職などの高い位になったことから、出世は現代使われている意味になったとされます。

高い地位を目指し、それをモチベーションにして努力するのは決して悪いことではありません。しかし欲にかられて、自分本位になってしまふのは考えものです。そんなときは本来の「出世」の意味を思い出して行動したいですね。

# 伝えたい言葉 (15)

往生はおうじょう

世にやすけれど

みなひとの

まことの心

なくてこそせね

(法然上人ご詠歌)

〈現代語訳〉

往生することは、世にも容易いことであるけれど、人々に誠の心がなければ往生することができないのです。

往生とは「生き生まれること」

であり、阿弥陀仏のいる極楽浄土に生まれ変わることを意味する言葉です。日本語には、この往生から派生した語がいくつもあります。たとえば立ち往生。武蔵坊弁慶が立ったままで命尽きた姿に由来する言葉ですが、今では物事が行き詰まったり、

進めなくなることを意味する語として用いられます。また往生際が悪いという言い回しをご存じの方も多いでしょう。往生際とは死ぬ間際のこと、昔はこれが悪いと極楽に往生することできないと考えられていました。いまでは、それが転じてあきらめが悪いという意味になっていきます。もしかしたら、何としても生きようと、阿弥陀さまのお迎えを断るあきらめの悪さが語源かもと想像してしまいます。このような往生に関する言葉が身近にあるのは、それほど日本人に往生がなじみ深いものであ

ることを示しているのでしょうか。さて、浄土宗でも大切にしている『無量寿経』というお経には「極楽往生は簡単だけど、そのような人はまずいない」と説かれています。法然上人もこれを読んで、今回紹介する和歌を読んだようです。なぜ往生が簡単なのに、それを果たす人は少ないと説かれるのでしょうか。それは、上人の言葉で言えば「誠の心が無い」からです。この誠の心とはどんなものでしょう。その答えが『観無量寿経』というお経に書かれています。

『観無量寿経』では私たちが

①至誠心、②

深心、③回向

発願心という

三つの心（三

心）を持つと往

生できると説明

します。①至誠

心は、極楽に往

生したいと願う

真実の心。②深心は、自分のいたらなさを知り、阿弥陀様を深く信じる心。③回向発願心は、自分の行いの全てが往生につながりますようにと願う心。法然上人はこれらを一つにすると「阿弥陀様を信じ、極楽往生を願って、南無阿弥陀仏のお念仏しか自分にはないと確信すること」と述べます。これが誠の心です。そして、往生したいと願って南無阿弥陀仏を称えると、自然と三心が身につくとも言っています。逆に疑ってしまったら、三心は身につかず、往生はできません。これが誠の心がないということなのです。

往生を信じて、お念仏を称えれば、誠の心が具わる。それは、亡くなった人に会いたいと思つて南無阿弥陀仏を称えることで、いつか再会ができるということでもあります。どうぞ、良い往生際を目指して、お念仏をお称えいたしましょう。

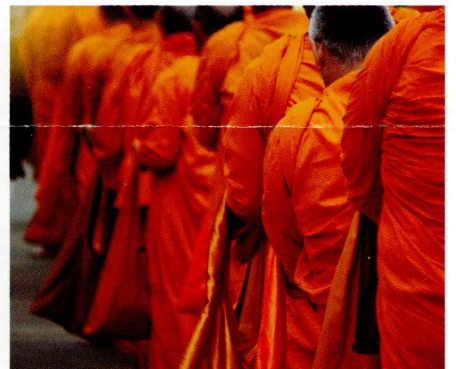


往生する人を迎えに来る阿弥陀仏  
〈阿弥陀聖衆来迎図（出典：colbase）〉

## Q&Aですぐわかる! なるほど浄土宗

15

身近な仏教の疑問をQ & A  
形式で説明します!



——7月盆と8月盆はどう違うの？

——お盆の正式な時期は「7月15日」とお経に定められています。これはインドの仏教で僧侶が「安居」と呼ばれる特別な修行期間を終える日です。お盆は正式には「盂蘭盆」といい、この修行を終えた僧侶にお盆に乗せた食事を施すことで功德を積む日とされます。インドで生まれたお盆は、中国に伝わり法要として整えられ、それが日本に伝わります。これは4月に行われる花祭りとは並び、日本で行われた

もつとも古い法要の一つです。もちろんそれは7月15日に行われました。それ以降、明治時代までお盆は7月に行われてきました。

ところが明治となり、それまで使われてきた暦が新しくなります。政府は新しい暦の日付で仏事をするように働きかけました。首都である東京はそれに従い、お盆を新暦7月に行いました。一方、農村部では新暦7月に当たる旧暦6月は農繁期のため、旧来のお盆の時期をずらしませんでした。これが新暦8月に行われる、現在の月遅れの盆です。

7月盆と8月盆、二つのお盆ができたのは日本に明治維新が起きたからといえます。



## 令和6年 浄土宗開宗850年

令和6年、法然上人が浄土宗を開かれて850年の節目を迎えました。

法然上人は、「南無阿弥陀仏」とお念仏をとねえることにより、すべての人が平等に阿弥陀さまに救われていく道を説かれました。その教えは現代に脈々と受け継がれ、今日も変わらずに私たちに極楽浄土への道を示し続けてくださっています。

本年は、そのことを慶ぶための多くの法要や行事が営まれています。機会がありましたらぜひご参加いただき、その歴史やお念仏の教えのありがたさを感じてください。



法然上人絵伝 (改変・出典: colbase)

### 普照山 正定寺

■所在地

〒111-0036 東京都台東区松が谷2丁目1-2

■TEL: 03-3841-1853 ■FAX: 03-3841-1777

### 紫金山 静蓮寺

■所在地

〒110-0004 東京都台東区下谷1丁目12-21

■TEL: 03-3843-4034 ■FAX: 03-3843-3442

### 母冲山 清見寺

■所在地

〒100-2211 東京都小笠原村母島字元地122

## 代理墓参 承ります

コロナ禍でなかなかお墓参りにも行けない…そんなお声が多数寄せられましたので、住職が代理でお墓を掃除し、お参りをいたします。ご希望の方は、直接ご連絡いただくか、冥加料を現金書留にてご郵送ください。後日お参りの様子をお手紙にてお送りさせていただきます。

